未来通信

広河陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
未来通信

【Ｎコード】
Ｎ８９８４Ｙ

【作者名】
広河陽

【あらすじ】
平凡な大学生に過ぎなかった東雲あてに真夜中にかかってきた電話。受話器の向こうには思いもよらない相手がいた。そして、彼の運命は捩じれていく。
自身のサイト「ふみかばんのほーむ」より転載したものです。

目覚まし時計に目をやった。蛍光塗料の塗られた2本の針は2本とも、闇に白っぽく浮かび上がった12という数字をさしていた。
霞のかかった頭を小突く。寝ぼけているのだ。そうに決まっている。でなければ、こんな時間に電話の呼び鈴が聞こえるわけがない。

が、気障りな音はあいかわらず鼓膜を震わせている。観念して受話器をとることにする。
「はい、東雲(しのめ)です」
瞬間、受話器の向こうで息を飲むのが判った。
「どちらさまですか」
返事はない。胸が苛立った。
「こちらは東雲です。もう一度電話番号をお確かめの上、おかけなおし下さい」
早口で吐き捨てるように言うと、受話器をたたきつけようとした。それを実行しなかったのは、電話の向こうから聞こえた声が、あまりにも聞き覚えのあるものだったからだ。
(待ってくれ)
男の声だった。自分と同じぐらいの年の。否、性別や年齢だけではない。成人男性にしては高めの声、東北訛りを少しひきずるようなイントネーション。すべてが自分と同じだった。
(おまえは東雲虹彦、だな)
声が言った。間髪入れずに答える。
「おまえも東雲虹彦、か」
(ご明察、その通り。さすが、俺だな)
向こうの彼は、鼻を鳴らした。満足げな笑みを浮かべているのだろう。こっちは、ただ不機嫌だ。こんな時間に起こされたのだから。

「こんな真夜中に冗談なんか聞きたくない。人をからかうのもたいがいにしろ」
（冗談じゃない。それに真夜中なんてそっちこそふざけるな。今は午後四時だろ）
「いいか、今は、１９９３年８月３日になったばかりなんだよ。午前１２時３分。狭い日本で時差なんてあってたまるか」
（判った）
頓狂な声がした。思わず眉がひそめられる。
（時差じゃない、これは時間跳躍（タイムリープ）だ、時間跳躍通信なんだ。いいか、よく聴け）
向こうが沈黙した。そのかわり、きこえたのは街のざわめきと、覚えのあるメロディ。街なかにある小学校が、下校時間、午後４時に流すメロディだった。
（これで信じられたか。こっちは８月１０日だ。つまり、こっちは一週間前の自分と、そっちは一週間後の自分と話しているわけだ）

「その話、本当？」
私は聞き返した。彼、東雲虹彦は、氷だけになったコップを握りながら、神妙そうにうなずいた。店内の暗めの照明で、彼は予言者めいて見えた。
「この前、株価と円相場を当ててみせただろう。実は、前もって電話できいたんだ。ところが、そんなふうに半年前から毎週火曜の真夜中にかかさずあった電話が、昨日なかった」
彼は重々しく口を閉じた。
つまり、来週の彼は、電話をかけることができなかった。
それが何を意味するか、誰に訊いても同じ答えが返ってくるだろう。
第三次世界大戦勃発。中東の国々を中心とした各国の怪しげな動き。今、世界平和は危うい均衡の上で辛うじて守られている。そん

なこと、新聞に目を通せば、もしくは、テレビを見れば、誰にでも判る。
そして、一週間後には平和は破られている。彼は、そう言いたいのだ。
「だから、俺はもう大学には出ない。やりたいことをやる。君は？」
「私は出る。ごめん、疑うわけではないけれど、信じきれることでもないから」
そう言うと、彼は口辺に会心の笑みをたゆたわせた。
「君ならそう言うと思った。だから話したんだ。そんなわけで代返頼む。周りの連中にも適当に言っておいてくれ」
そんな時でも出席を気にするのが、いかにも彼らしかった。
そうして、彼とこの喫茶店で別れたのが一週間前。ところが、私はこうして生きている。世の中も至って平穏だ。
第三次世界大戦は、各国首脳の懸命の努力でなんとか回避された。このことは十年後の世界史の教科書に「中東危機」とでも名前をつけられて、年表に載せられるだろう。
彼の話は妄想だったのか。そうではない。彼の話は本当だった。
ここ二、三日、新聞をにぎわしている或る事件がある。
「史上最悪の飛行機事故、国内線2機衝突。両機とも生存者は絶望的」
そして、長い長い乗客リストには、東雲虹彦の名もあった。
――了

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8984y/

未来通信

2011年12月18日01時48分発行